

苫小牧市長 金澤 俊（かなざわ すぐる）



【略歴】

- 1997年 3月 同志社大学文学部社会学科卒業
- 1997年 4月 三菱商事株式会社入社
- 2004年 4月 苫小牧市役所入庁
- 2007年 5月 苫小牧市議会議員選挙にて初当選
- 2019年 5月 第37代苫小牧市議会議長就任
- 2023年 5月 苫小牧市議会議員選挙にて5期目当選
- 2024年 12月～ 苫小牧市長

【プロフィール】

- 生年月日 : 1974年7月10日（満50歳）
- 趣味 : アイスホッケー、野球、空手、歴史
- 好きな言葉 : 元気があればなんでもできる！
- 家族構成 : 妻と1男4女の7人家族

“選ばれるまち苫小牧”

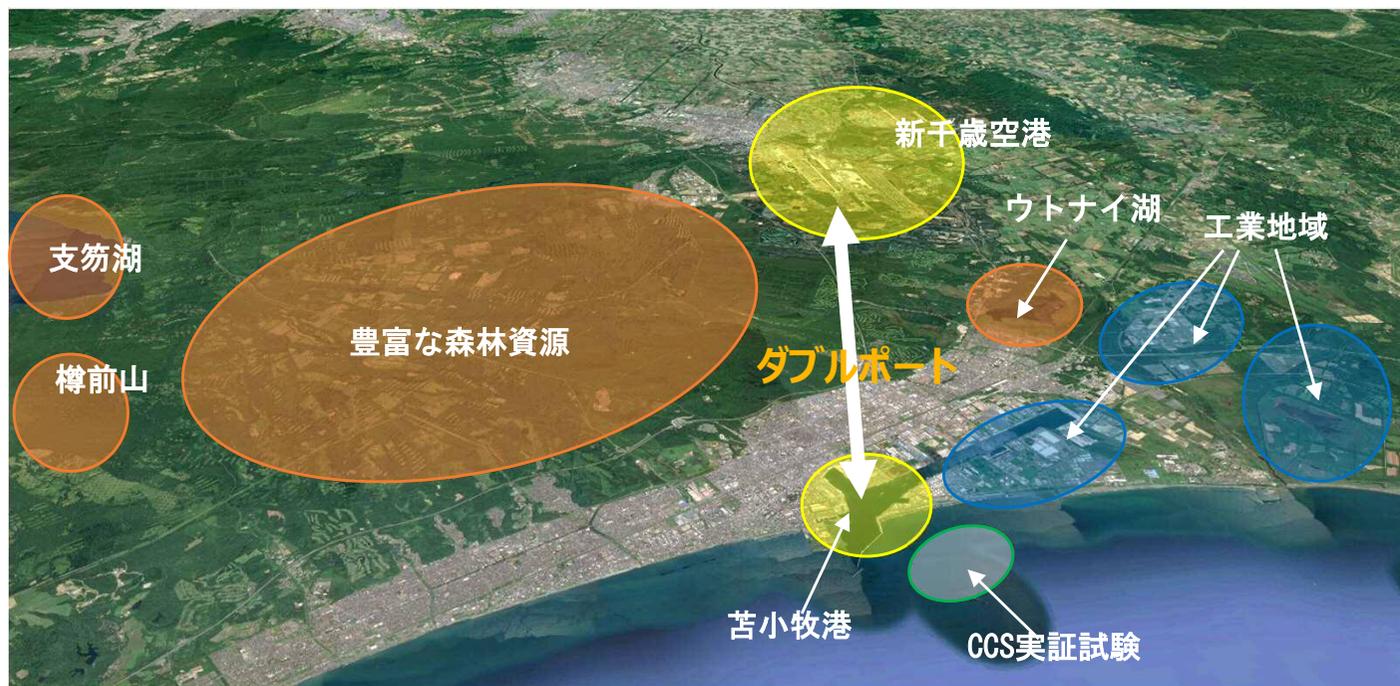
- ①子どもど真ん中のまち 苫小牧
- ②経済発展最大化のまち 苫小牧
- ③よい環境と活力あふれるまち 苫小牧
- ④教育のまち 苫小牧
- ⑤医療・ふくし、防災のまち 苫小牧
- ⑥「スポーツ×文化×観光×健康」のまち 苫小牧
- ⑦市民総活躍のまち 苫小牧



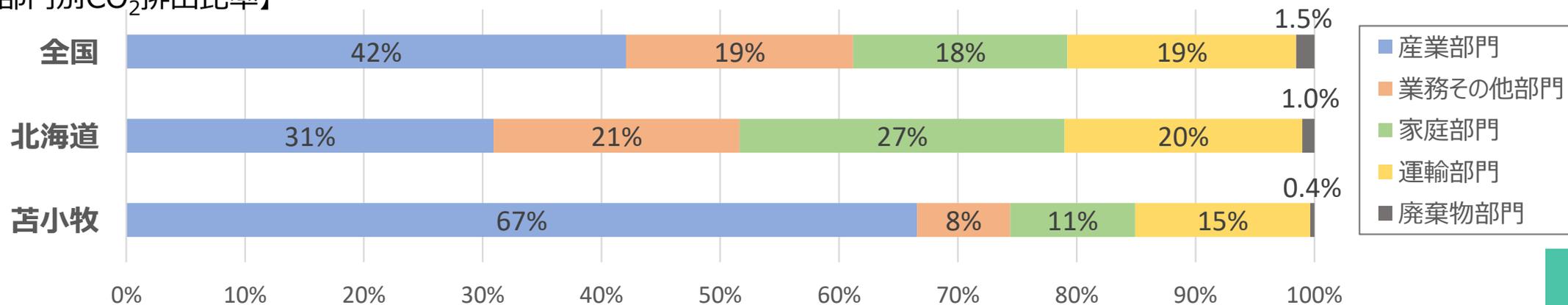
- 樽前山やラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖などの自然豊かな地域
- ダブルポートを擁した人流・物流拠点と、様々なものづくり産業が集積した道内有数の工業都市
- 全国や北海道と比べ、産業部門からのCO₂排出比率が非常に高く、産業部門の取組が非常に重要



面積：約560km² 東京23区とほぼ同じ
市域：東西 約40km 南北 約24km
人口：164,814人 道内第4位

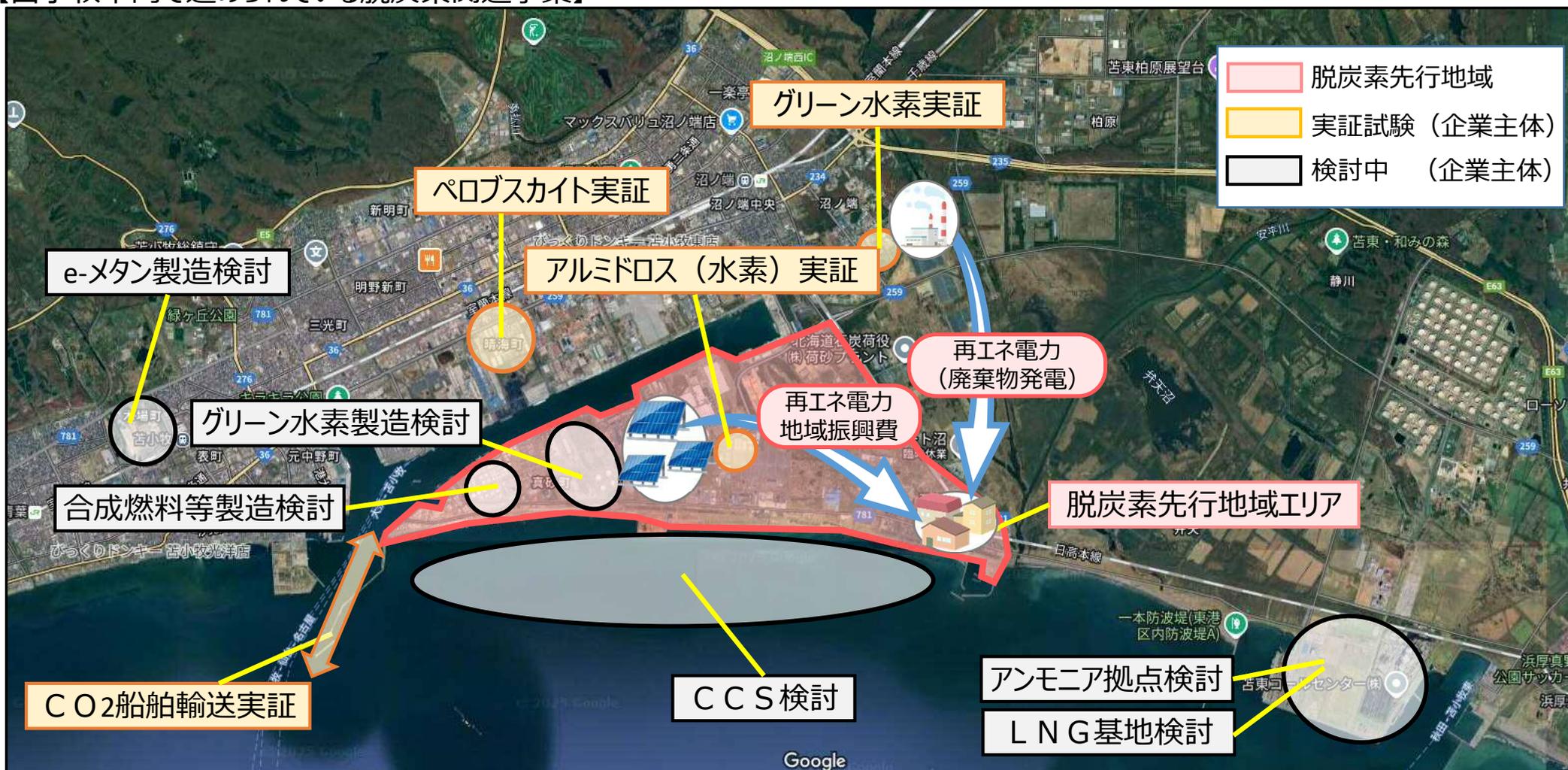


【部門別CO₂排出比率】



- 西部工業基地や勇払地域を脱炭素先行地エリアとして指定し、面的な脱炭素事業を実施している。
- 苫小牧市内では、その他にも水素やペロブスカイトの実証、CCUS関連やLNG基地の検討など、様々な脱炭素関連事業が並行して企業主体で進められている。

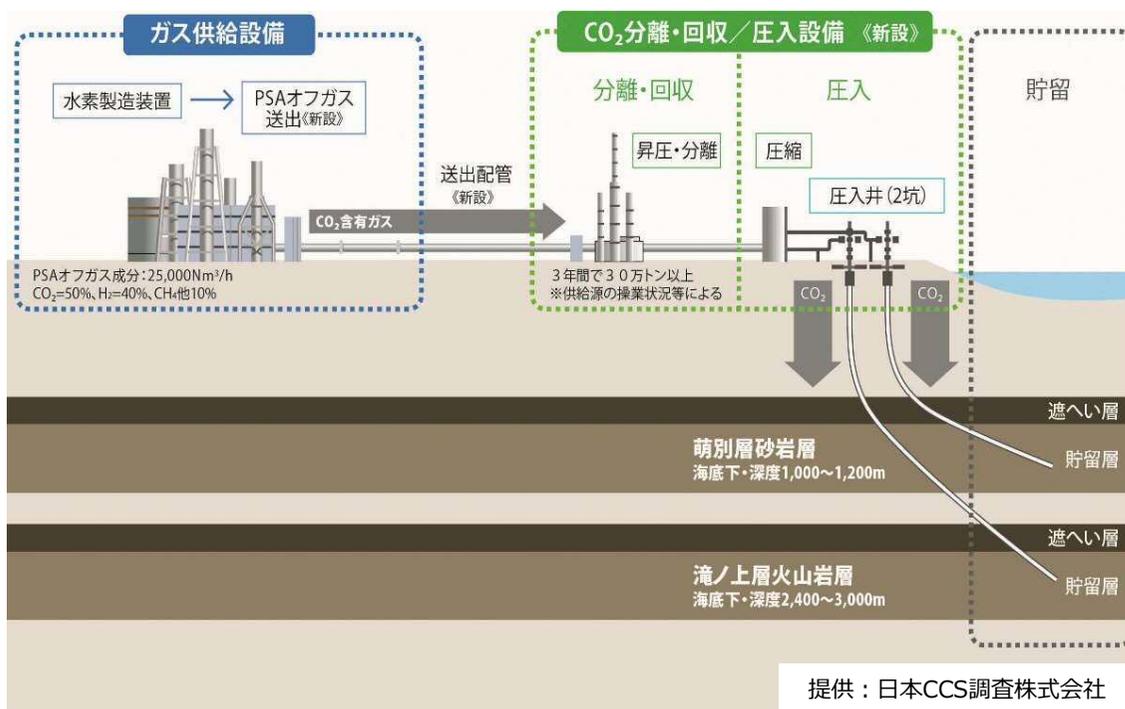
【苫小牧市内で進められている脱炭素関連事業】



- 道内随一の工業都市の特徴を最大限活用するため、複数の産業施設に大規模なPVを設置し、産業部門のCO₂排出量を大幅に削減すると同時に、そこで得られる再エネ余剰電力と地域振興費を活用して、民生部門の脱炭素化と地域課題解決を図り、産業の取組が民生に資するモデルを構築する。
- 2025年2月に特定区域に指定されたCCSや合成燃料等製造、将来的なSAFにより次世代エネルギー拠点を目指す。



- 苫小牧市にて我が国初となるCCS大規模実証試験を実施。
- 2012～2015年度は、CO2分離・回収設備等の設計・建設、坑井の掘削を実施。
- 2016年度より、製油所の排出ガスから分離回収したCO2の年間10万トン規模で地中への圧入を開始。
- 2019年11月22日、当初目標のCO2圧入量30万トンを達成し、CO2圧入を停止。
- 2020年度以降も、地層の温度圧力、海洋環境調査、圧入したCO2の挙動確認のためのモニタリングを継続。



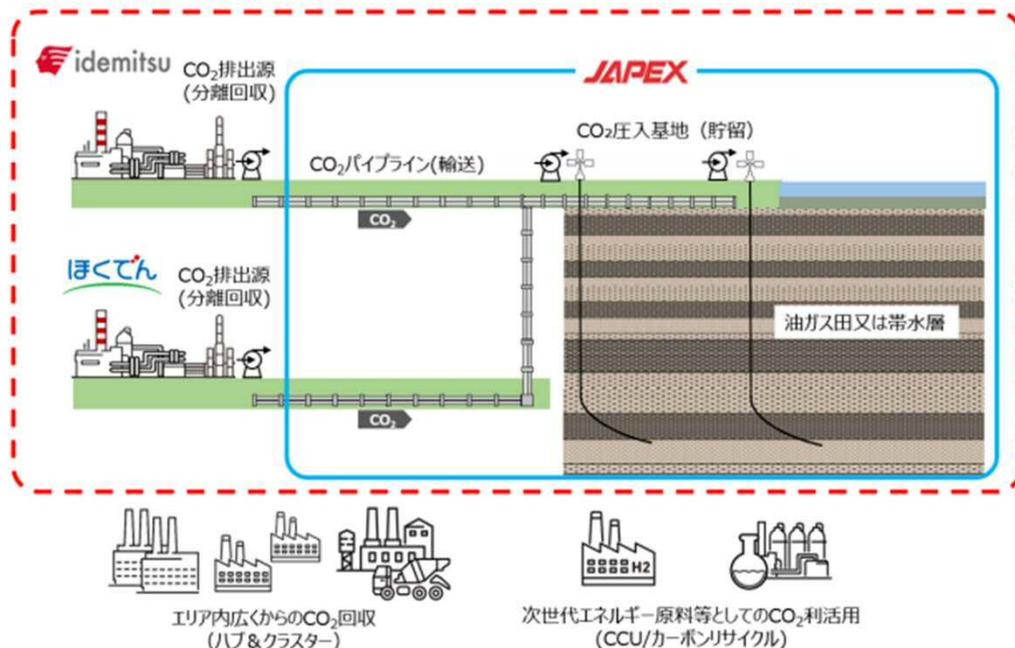
苫小牧CCS実証試験の概念図



CCS実証試験設備

- 石油資源開発（株）、出光興産（株）、北海道電力（株）の3社（以下、3社をあわせて「検討3社」）は、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）の令和5年度「先進的CCS事業の実施に係る調査」に関する委託調査業務の公募において、北海道・苫小牧エリアにおけるCCS 実現可能性調査を受託。
- CO₂の分離・回収については、出光興産（株）は北海道製油所、北海道電力（株）は苫東厚真発電所において、それぞれ必要な設備の規模や仕様などを検討。
- CO₂の貯留について、石油資源開発（株）にて、2030年時点における貯留量年間約150～200万トンを目指。

本調査における検討対象範囲



- スパークス・グリーンエナジー & テクノロジー株式会社が、環境省実証事業として2023～2025年度で、沼ノ端クリーンセンター内の廃棄物発電とその敷地内の太陽光発電の電力を組み合わせ、年間100万Nm³のグリーン水素を製造・供給するシステムを構築。
- 電力は自営線により水電解装置へ直接供給し、電力系統の制約により再エネ発電所の追加設置が困難となるような状況を解決するとともに、廃棄物発電所の夜間余剰電力の有効活用による製造コスト低減と地域内での水素利用を通じた需要創出や経済好循環に貢献する。
- 水素は高圧水素トレーラーにより、水素貯蔵設備として活用しつつ、アルテンゆのみの湯やトヨタ自動車北海道などに運搬し、定置型燃料電池、ボイラー・ストーブにて利用することで、寒冷地において広く普及している灯油の使用量削減にも貢献する。

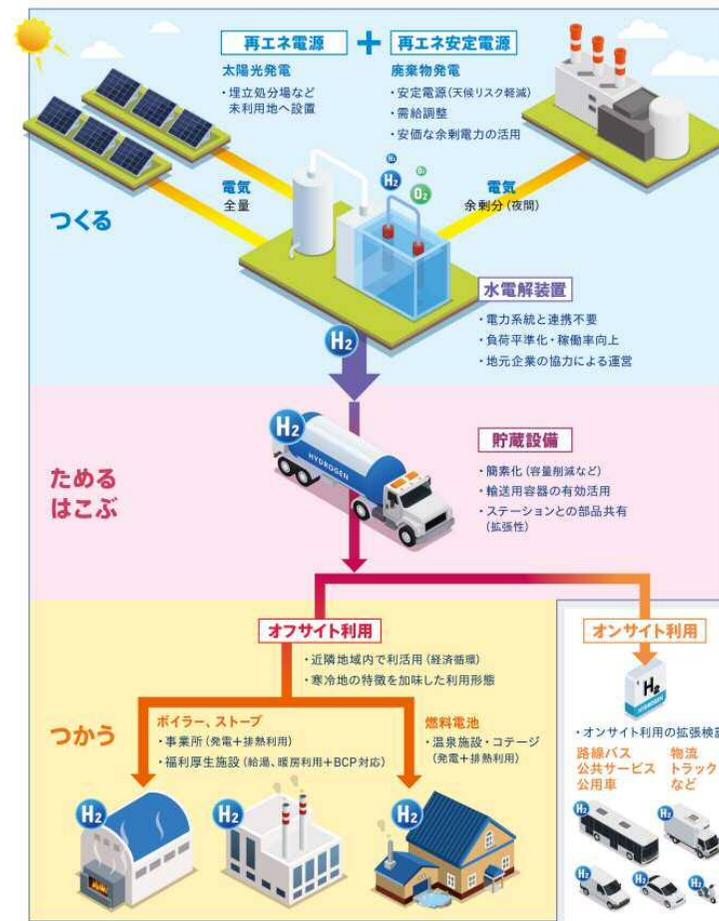
＜ステークホルダー＞



＜サプライチェーンの位置関係＞



＜事業範囲＞



出典：スパークス・グリーンエナジー & テクノロジー（株）作成資料より

- 出光興産(株)、ENEOS(株)と北海道電力(株)の3社は、2030年頃までに北海道苫小牧西部エリアにおいて、国内最大となる約1万トン/年以上のグリーン水素を製造できる水電解プラント(100MW以上)を建設し、豊富な再生可能エネルギーを活用し製造したグリーン水素を、出光興産および地域の工場などにパイプラインで供給するサプライチェーンの構築を目指すもの。
- 苫小牧西部エリアに立地する事業者への調査により、当該エリアにおける化石燃料から水素への転換需要は、各工場のプロセス利用、発電利用、熱利用およびモビリティ利用として合計7万トン/年程度が見込まれており、国産グリーン水素サプライチェーンの構築が本市の脱炭素化に大きく貢献する。

○北海道国産グリーン水素サプライチェーンの構築



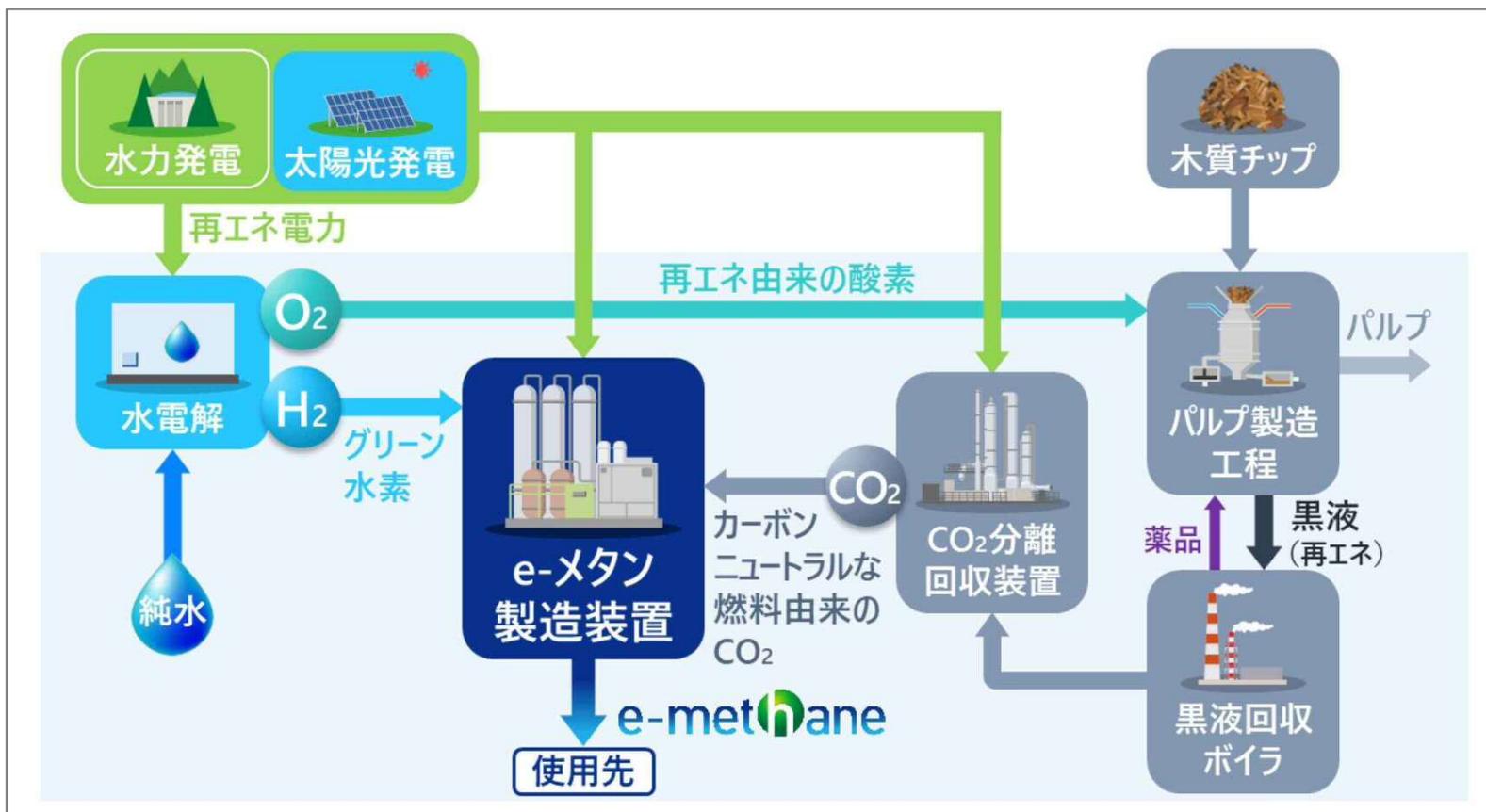
出典：ENEOS(株)HPより

- 北海道電力株式会社、北海道三井化学株式会社、株式会社IHI、丸紅株式会社、三井物産株式会社、および苫小牧埠頭株式会社の6社は、北海道の苫小牧地域を拠点としたアンモニアサプライチェーン構築に向けた共同検討を開始した。
- 今後、海外で製造したアンモニアの苫小牧地域での受入・貯蔵・供給拠点の整備に関する検討や、同地域を起点とした北日本広域圏でのアンモニア利活用先の拡大に向けた調査などに取り組む。



- 王子ホールディングス(株)は、王子製紙(株)、東京ガス(株)、東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)と共同で、王子製紙苫小牧工場におけるe-メタン製造に向けた共同検討の開始に合意した。
- 苫小牧工場が有する水力発電設備や、今後設置を検討する太陽光発電設備からの再エネ由来の電力により製造したグリーン水素と、同工場で発生・回収したCN燃料由来のCO₂を反応させることで純国産e-メタンを製造することやその活用について検討を行う計画。

○苫小牧工場で検討するe-メタン製造の流れ



出典：王子ホールディングス(株)HPより

- 北海道ガス株式会社は、国内随一の再生可能エネルギーポテンシャルを有する北海道におけるGXの推進をより一層加速させるため、エネルギーインフラが集約される苫小牧地区に、将来的な水素・e-メタン導入等を見据えた北ガスグループのカーボンニュートラル拠点となる新たなLNG基地の建設を検討。



＜検討の概要＞

検討場所：苫小牧市字弁天（苫小牧港管理組合所有地）

検討設備：LNG基地（外航船受入設備、LNGタンク、LNG気化器、内航船・ローリー出荷設備等）、
水素・e-メタン活用設備ほか

検討期間：2024年度～2025年度

出典：北海道ガス（株）HPより作成